

一般社団法人新潟県臨床検査技師会
令和3年度通常総会議案書

期 日 令和3年5月30日(日) 13時00分開会

会 場 新潟ユニゾンプラザ 小研修室3

※感染拡大防止の観点から一般会員の出席は極力ご遠慮ください。

議事

- 1) 第1号議案 令和2年度事業報告について
- 2) 第2号議案 令和2年度収支決算書について
- 3) 第3号議案 令和2年度監査報告について
- 4) 第4号議案 文書配信システムのメールアドレスの災害時メーリングリストへの使用について
- 5) 第5号議案 支部提出議案について
- 6) 第6号議案 日臨技定時総会提出議案について
- 7) 第7号議案 次年度役員選出について

報告

令和3年度事業計画および収支予算について

会員の皆様におかれましては総会議案書をご確認頂き、必ず委任状の提出をお願い致します。

令和2年度事業報告

会長

渡邊 博昭

令和2年度は新型コロナウイルスに翻弄され、第94回新潟県臨床検査学会をはじめ、多くの活動を中止せざるを得ない1年間となり、対面での研修会等の機会が大きく減少した。しかしながら、新型コロナウイルスや緊急事態宣言をきっかけに、今までは取り組んでこなかったリモートでの会議、研修会等の開催が急速に普及した。

令和2年度も理事が一丸となって努力して参りましたが、至らぬ点がありご迷惑をお掛けしたと思います。しかしながら無事に会務を遂行できたことは会員の皆様のご理解とご協力によるものと改めて感謝いたします。

令和2年度の事業の概要を下記の通り報告する。

総務部

- ① 定款の確認および各種規定および手順書の見直しを行った。
- ② 表彰関係は例年度通りの事業に加え、新たに学会表彰と小島三郎記念技術賞の推薦を行った。
- ③ 文書発送をメール配信に切り替えた。

学術部

- ① 精度管理事業は、日臨技のシステムを使用して事業を行った。
- ② 検査研究部門活動は、日臨技助成金に対して6研修会の申請を行った。

広報部

- ① 会誌、ニュース、ホームページがそれぞれの役割を明確にして事業を行った。特にホームページは迅速な対応を行った。

1. 通常総会の開催

令和2年5月30日(土)新型コロナウイルス感染拡大防止(3密を避ける)の観点より、令和2年度通常総会は議決権行使書にて実施された。各議案の賛否を記載した議決権行使書の提出して頂き、総会当日は役員にて議決権の確認を行うこととした。令和元年度事業報告、同決算報告、監査報告に関して、議決書において賛成多数により承認された。また、令和2年度事業計画(案)、収支予算(案)の確認もされた。

2. 会務の執行体制

1) 職務分担

令和2年度は役員任期の後期にあたったが、前期同様に学術部、広報部、総務部の3部門に理事を配置し、各部門との連携を図りながら会務を執行した。

2) 事務局体制

事務局業務が非常に多くなっている現状で、阿部事務員の努力により諸会議の準備や日臨技・北日本支部および会員との連絡・調整役を担い、又、JAMTIS運用による会員情報登録および変更作業を迅速に処理し、組織運営上、大変重要な役割を果たしている。

3. 諸会議の開催

- 1) 理事会 第1回 令和2年4月30日(書面決議)
第2回 令和2年6月27日(書面決議)
第3回 令和2年8月1日(各施設等(Zoomを用いたオンライン会議))
第4回 令和2年9月12日(各施設等(Zoomを用いたオンライン会議))
第5回 令和2年11月15日(各施設等(Zoomを用いたオンライン会議))
第6回 令和2年12月12日(各施設等(Zoomを用いたオンライン会議))

2) 常任理事会

定例常任理事会は、令和2年度は1回の開催となった。

3) 三役会議

急な協議事項等についてはメール等を利用し協議を行ない、特に三役会議は開催しなかった。

4) 各種委員会の開催

(1) 会誌編集委員会

新臨技会誌(季刊発行)第315号から第318号の編集業務のため、メール等を利用して実施した。

(2) ホームページ委員会

会員への情報伝達手段としてホームページの充実と運用に努めた。

(3) 検査研究部門委員会

各検査研究分野の活動計画並びに運営等を協議するため1回開催した。

(4) 生涯教育研修委員会

理事会や各支部生涯教育委員と連絡をとりながら研修会予定および参加者の登録を行った。

(5) 精度管理委員会

精度管理調査の事業計画、集計処理状況把握、検討会企画の協議のため3回開催した。

(6) 表彰委員会

各種表彰の対象者選考のため、メール審議ならびに書面決議を各1回開催した。

4. 組織対策

1) 入会対策

会員数の多い年代が定年を迎え会員数の減少が懸念されるが、各支部役員および各施設連絡責任者の協

力により入会を勧めた。

本年度の新入会および再入会の会員数は55名。

本会の正会員総数は1,366名。(令和3年3月現在)

技師連盟入会者数は48名 72口

社会的地位向上および今後の業務拡大の為に、更に多くの会員の入会をお願いする必要がある。

2) 各支部との連携強化

各支部ともその地域性を生かした独自の活動が浸透し、年々活発化している。支部総会等に役員を派遣し、連携強化を図った。

5. 地域保健医療活動および公益事業

新型コロナ感染禍にて公益活動は中止、不参加となった。

6. 求人情報

日臨技への情報登録とともに、会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供した。

7. 災害関係

災害支援活動や会員の安否確認に威力を発揮する災害支援ネットワークに賛同と登録をお願いした。

登録者は100名(令和3年3月現在)となった。

8. 表彰関係(敬称略)

1) 第38回篠川至賞(書面決議)

学術賞部門 小柳敬子(新潟県立がんセンター新潟病院 がん予防総合センター)

学術賞部門 白川千恵子(新潟医療技術専門学校)

2) 令和2年度功労者表彰(書面決議)

(1) 永年会員功労者表彰 該当者29名

(2) 特別功労者表彰 田澤 崇(長岡地域振興局健康福祉環境部)

3) 名誉会員 該当なし

4) 令和2年度生涯教育履修表彰(書面決議)

奨励賞 寺島 健(JA新潟厚生連 小千谷総合病院) 540点

清野 真紀子(医療法人社 M&B コラボレーション北越病院) 442点

宮路 渚(国立大学法人 新潟大学医歯学総合病院) 440点

新人賞 生田 泰豊(長岡赤十字病院) 340点

9. 研修会の実施

新潟県より委託を受け、新型コロナ感染に関する検体採取実技研修を2回ならびにPCR実技研修会を5回実施した。

学術部

副会長 桑原喜久男

令和2年度は新潟県臨床検査学会、検査研究部門活動、精度管理事業、生涯教育を中心に活動を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を大きく受け、第94回新潟県臨床検査学会は令和3年に延期となった。10月より、支部研修会、検査研究部門の研修会がZoomを用いて、Web上で開催されるようになり、新たな研修会の形となった。

1. 学会

桑原喜久男

令和2年11月8日(日)に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにおいて、田村実行委員長のもと、第93回新潟県臨床検査学会の開催を予定していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、次年度へ延期した。

2. 検査研究部門

中村 岳史

令和2年度検査研究部門は、9部門3分野（生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門、臨床検査総合部門の9部門、臨床生理部門は、神経生理分野、循環生理・呼吸生理分野、超音波分野の3分野）で組織構成され、部門構成員は最大各部門6名、各分野4名、活動費は各部門12万円、各分野8万円で運営された。

今年度、検査研究部門が開催した研修会は、合計8回であった（昨年度17回、一昨年度17回）。各部門分野別では、生物化学分析部門1回、臨床一般部門1回、臨床血液部門0回、臨床微生物部門2回、輸血細胞治療部門1回、病理細胞部門1回、染色体・遺伝子部門0回、臨床生理部門（神経生理分野0回、循環生理・呼吸生理分野0回、超音波分野1回）、臨床検査総合部門1回であった。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大への対策として、実地開催はせずZoomを用いたオンライン研修会での開催となった。これまでの研修会とは違いオンライン研修会という初めての試みの中、研修会を開催できたことは各部門の努力の賜物と思われる。

研修会の内容は、専門性の高い内容から基礎的内容のものまで会員のニーズを鑑み、企画運営されており、多くの会員が参加しやすい内容であった。また、Zoom使用のポイントや注意事項などオンライン研修会開催における必要な講習会を、検査研究部門員や支部役員などを対象に実施した。今年度は、実技研修を開催することはできなかった。実技研修は会員からのニーズが高く、技術面の向上に寄与するため、実技研修の開催は今後の課題の一つと考えられた。

次年度も、新型コロナウイルス感染状況を注視しながら、引き続きオンライン研修会開催を推進し、会員の声を反映しながら知識や技術の向上のため、会員にとって有益な学術活動を運営していきたい。

検査研究部門の研修会

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
生物化学分析	令和3年 3月20日（土）	専門20	56名	0名	【令和2年度 新潟県臨床検査技師会生物化学分析部門/日本臨床化学会甲信越支部新潟分科会第52回研修会/生物試料分析化学会甲信越支部新潟分科会第18回研修会 合同研修会 (Web開催)】 1. 「ドラッグデリバリーと膜透過ペプチドについて」 新潟大学医学部保健学科 奥田 明子 2. 「尿中バイオマーカーを活用した心腎連関・糖尿病性腎症の疾病管理 ～新規診断指標 L-FABP を中心に～」 聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科 菅谷 健 ZoomによるWeb開催 *日本臨床化学会甲信越支部新潟分科会と共催 *生物試料分析科学会甲信越支部新潟分科会と共催
臨床一般	令和3年 1月23日（土）	専門20	76名	0名	【令和2年度 臨床一般部門研修会 (Web開催)】 1. 「尿沈渣検査の基礎～血球類～」 新潟聖籠病院 齋藤 直子 2. 「尿沈渣検査の基礎～上皮細胞類～」 新潟大学歯学総合病院 宮路 渚 3. 「尿沈渣検査の基礎～円柱類～」 新潟県労働衛生医学協会 計良 政裕 ZoomによるWeb開催
臨床血液	研修会開催なし				
臨床微生物	令和3年 11月28日（土）	専門20	52名	0名	【令和2年度 臨床微生物部門研修会 (Web開催)】 1. 「感染症検査の最新トピックス2020～菌トレと遺伝子検査&ウイルス学の基礎も含めて～」 東京医科大学 微生物学分野 大楠 清文 ZoomによるWeb開催
	令和3年 2月28日（日）	専門20	48名	0名	【令和2年度 臨床微生物部門研修会 (Web開催)】 1. 「真菌検査について」 医療法人社団小白川至誠堂病院臨床検査科 中川 卓夫 ZoomによるWeb開催
輸血・細胞治療	令和3年 3月6日（土）	専門20	63名	0名	【令和2年度 輸血細胞治療部門研修会 (Web開催)】 1. 「輸血検査に関わる免疫学の基礎知識」 (株)イムコア 学術サポート 八木 良仁 ZoomによるWeb開催

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
病理細胞	令和3年 2月27日(土)	基礎20	111名	3名	【令和2年度 病理細胞部門研修会(Web開催)】 1.「新潟県におけるがんゲノム医療」 新潟大学医歯学総合病院 ゲノム医療センター 若井 俊文 2.「パネル検査の実際と結果、エキスパートパネル」 新潟大学医歯学総合病院 ゲノム医療センター 島田 能史 3.「がんゲノム医療と病理～新潟大学病院の例と県内施設アンケート～」 新潟大学医歯学総合病院 病理部 池亀 央嗣 ZoomによるWeb開催
染色体・遺伝子	研修会開催なし				
臨床生理	神経生理分野 研修会開催なし				
	循環・呼吸生理 分野 研修会開催なし				
	超音波分野 令和2年 12月20日(日)	専門20	82名	5名	【心エコー研修会 Vol.1 (第4回新潟心臓超音波スキルアップセミナー)】 1.「左室壁運動の評価法」 新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科 大久保健志 2.「心エコー レポートの記載方法 新潟大学医歯学総合病院編」 新潟大学医歯学総合病院 小林 絃子 3.「この症例 どう考えるのか? 皆さんのご意見は??」 済生会三条病院 桑原喜久男 ZoomによるWeb開催
臨床検査総合	令和2年 10月17日(土)	専門20	36名	0名	【令和2年度 臨床検査総合部門研修会】 1.「Zoom使用におけるポイントと注意事項」 北里大学保健衛生専門学院 大西 秀典 2.「都道府県主催オンライン研修会等の運用について」 新潟県臨床検査技師会 坂西 清 ZoomによるWeb開催

3. 精度管理事業

坂西 清

本年度も新潟県から新潟県医師会への委託事業である令和2年度(第41回)新潟県臨床検査精度管理調査会を行った。技師会としても積極的に当事業に協力し、集計、解析を含めた実務の中心的役割を果たすと共に、臨床検査の精度向上に努めた。

本事業を担当する精度管理委員会はコロナ過であることから、Web会議などを中心に、全体会議を計4回開催しメールなどを用いて実施計画及び配送準備、データ集計、解析を実施した。

微生物検査は技師会が担当する一般菌1菌種の感受性と、新潟県保健環境科学研究所が担当する2菌種の同定を合わせて実施した。

新潟県臨床検査精度管理調査における目標値の設定は従来から日本臨床化学会(JSCC)の勧告法に準じた方法、および勧告法の伝達された認証標準血清を用いて実施してきた。JSCC勧告法は設定されて以来、多くの精度管理調査の目標値設定方法として、また市販試薬の対照測定法として用いられている。特定健診においても前述の標準物質を用いて標準化が行われていることが前提となっている。

昨年度より酵素項目、濃度項目の目標値設定については、基幹施設およびISO取得施設に別途測定依頼したデータを用い設定した。ただ、アルカリフォスファターゼ(ALP)のJSCC法については、基幹施設報告値と参加施設報告値に差がみられたため、メーカー報告値を目標値とした。

日本臨床化学学会より、アルカリフォスファターゼ(ALP)、乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)の測定方法をJSCC標準化対応法よりIFCC標準化対応法に今年度中に変更するように勧告されています。今年度の調査では、ALPで11施設、LDで12施設がIFCC標準化対応法で回答があったため、目標値を設定して評価を行った。

HDLコレステロール、LDLコレステロールは今年度の調査に用いた試料において測定方法(測定試薬)により値が異なるため、できるだけ多くの測定方法(測定試薬)に目標値を設定したいと考えメーカー報告値を目標値とした。また、LDLコレステロールの試料12(市販管理血清)において、デンカ生研試薬にて測定機種により測定値に差がみられたため目標値を別設定とした。クロール(CI)についても電極の違いにより測定値に差がみられたため別設定とした。HbA1cは本年度も日本赤十字社全血検体を用いたが、測定方法(測定試薬)により反応性が異なるためメーカー報告値を用いて測定方法毎に目標値を設定した。ドライケミスト

リー法はマトリックスの影響を受けやすいことから、メーカー報告値を目標値とした。

評価基準は昨年と同様に目標値からのバイアスの許容誤差限界 (BA) とした。ただし、評価基準は本年度から以下に示す日本臨床衛生検査技師会精度管理調査に準じた。本年度も試料11にヒトブール血清を使用しており、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、クレアチニン (Cre) において低濃度となったため暫定的に評価基準を目標値 $\pm 10\%$ とした。乳酸デヒドロゲナーゼ (LD) もばらつきが確認されたため、暫定的に $\pm 5\%$ とした。また、ナトリウム (Na) 及びクロール (Cl) は日本臨床衛生検査技師会精度管理調査と同様に評価B以下の基準を変更した。カリウム (K) はBAが1.9%あるが、規格の運用において、「測定値が小さく、目標値 \times BA (%) の値、あるいは目標値 $\times 5\%$ (許容誤差限界上限) の値が、日常報告している結果報告桁数の最小単位未満となる項目は結果報告桁数の最小幅の2倍を許容誤差限界とすることを推奨する。」となっていることから目標値 $\pm 0.2\text{mEq/L}$ とした。

なお、尿素窒素はReCCSの標準物質の認証値は内因性のアンモニアを含んでいないことからアンモニア消去 (回避) 法以外の測定方法、そしてクレアチンキナーゼ (CK) のアキュラスオート (シノテスト) は市販ヒト由来管理血清である試料12の反応性が異なることから、また測定方法未記入等は目標値の設定が不可能であるため評価対象外とした。

ドライケミストリー法はナトリウム (Na)、カリウム (K)、クロール (Cl) はドライケミストリー法以外の方法と同様の評価基準としたが、それ以外の評価項目はマトリックスの影響を受けやすいため、評価Bを1.5倍 (目標値 $\pm 7.5\%$) に広げた。

また、集計に用いた精度管理用システム (JAMTQC) は5施設未満の集団の統計処理、および目標値の設定が不可能である。そのため、方法別および試薬別に目標値を設定した項目で6施設未満の場合は評価を「施設別報告書」に反映させさせることが不可能であることから「対象外」の表記になる。ご不便をおかけすることをお詫びするとともに、下記目標値を参考に自施設の正確度の判断をお願いしたい。

CBCについては各項目とも昨年と同程度の収束がみられ、良好な結果であった。

一般フォトサーベイについては赤血球形態鑑別が非常に低い正解率であった。尿沈渣検査法2010で指針が示されて10年が経過しているがまだ判定基準が浸透していないような結果であった。本年初めて実施した髄液細胞数算定・鑑別は概ね良好な結果だった。

微生物 (薬剤感受性) については抗菌薬3種類、アンピシリン (以下 ABPC) : 49施設、アモキシシリン / クラバン酸 (以下 AMPC/CVA) : 43施設、セフトキシム (以下 CTX) : 44施設の参加であった。AMPC/CVA では、微量液体希釈法の10.8%、ディスク拡散法の16.7%でD評価となった。これは判定の変換が必要なものを交換せずに報告した施設である。

精度管理調査事業の内容は以下のとおりである。

1. 試料の到着 臨床化学は令和2年10月26日 (月) に到着予定です。
2. 測定日 サンプル到着後、可能な範囲で速やかに実施してください。
3. 測定項目

1) 臨床化学 ※生化学試料：冷凍試料・HbA1c 試料：冷蔵試料

グルコース (Glu)、ヘモグロビン A1c (HbA1c)、総ビリルビン (TB)、ナトリウム (Na)、カリウム (K)、クロール (Cl)、カルシウム (Ca)、無機リン (IP)、鉄 (Fe)、マグネシウム (Mg)、総蛋白 (TP)、アルブミン (Alb)、C反応性蛋白 (CRP)、尿酸 (UA)、尿素窒素 (UN)、クレアチニン (Cre)、総コレステロール (TC)、中性脂肪 (TG)、HDL-コレステロール (HDL)、LDL-コレステロール (LDL)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、アルカリフォスファターゼ (ALP)、乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)、アミラーゼ (AMY)、クレアチンキナーゼ (CK)、 γ -グルタミルトランスフェラーゼ (GGT)、コリンエステラー

ぜ (ChE) の28項目。

ドライケミストリー法は本年度も無機リン (IP)、総ビリルビン (TB) を実施しますが、参加は選択可能とします。また、LDL-コレステロール (LDLC) は実施しません。

2) 血液 ※血液試料：冷蔵試料

CBC 6項目 (ヘモグロビン濃度、血小板数、白血球数、赤血球数、ヘマトクリット値、平均赤血球容積)

4. 測定方法

各施設で使用している試薬、機器を用いて測定してください。

測定回数はルーチン検査と同様、「1回測定」の測定値をご報告ください。

また、他施設の情報を得ることは禁止します。

5. サンプル及び取り扱い

1) 臨床化学

※ドライケミストリー法は専用のサンプル13、14を測定してください。

試料	測定項目	取扱い上の注意
11	グルコース (Glu)、総ビリルビン (TB)、ナトリウム (Na)、カリウム (K)、クロール (Cl)、カルシウム (Ca)、無機リン (IP)、鉄 (Fe)、マグネシウム (Mg)、総蛋白 (TP)、アルブミン (Alb)、C反応性蛋白 (CRP)、尿酸 (UA)、尿素窒素 (UN)、クレアチニン (Cre)、総コレステロール (TC)、中性脂肪 (TG)、HDL-コレステロール (HDL)、LDL-コレステロール (LDLC)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、アルカリフォスファターゼ (ALP)、乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)、アミラーゼ (AMY)、クレアチンキナーゼ (CK)、 γ -グルタミルトランスフェラーゼ (GGT)、コリンエステラーゼ (ChE)	ヒト血清です。サンプル到着後は-40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合、できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また、感染性の確認はしてありません。取り扱いには十分注意してください。
12	HDL-コレステロール (HDL)、LDL-コレステロール (LDLC)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、アルカリフォスファターゼ (ALP)、乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)、アミラーゼ (AMY)、クレアチンキナーゼ (CK)、 γ -グルタミルトランスフェラーゼ (GGT)、コリンエステラーゼ (ChE)	ヒト血清由来凍結品です。サンプル到着後は-40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合、できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また、感染性の安全はできる範囲で確認済みですが、取り扱いには十分注意してください。
13 (DRY I) 14 (DRY II) ※ドライケミストリー法専用	グルコース (Glu)、ナトリウム (Na)、カリウム (K)、クロール (Cl)、カルシウム (Ca)、鉄 (Fe)、マグネシウム (Mg)、総蛋白 (TP)、アルブミン (Alb)、C反応性蛋白 (CRP)、尿酸 (UA)、尿素窒素 (UN)、クレアチニン (Cre)、総コレステロール (TC)、中性脂肪 (TG)、HDL-コレステロール (HDL)、LDL-コレステロール (LDLC)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、アルカリフォスファターゼ (ALP)、乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)、アミラーゼ (AMY)、クレアチンキナーゼ (CK)、 γ -グルタミルトランスフェラーゼ (GGT)、コリンエステラーゼ (ChE)	ヒト血清です。サンプル到着後は-40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合、できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また、感染性の確認はしてありません。取り扱いには十分注意してください。
17	ヘモグロビン A1c (HbA1c)	ヒト血液です。通常の検体と同様に測定してください。感染性の安全はできる範囲で確認済みですが、取り扱いには十分注意してください。また、サンプル到着後は冷蔵保存し、できるだけ速やかに測定してください。

2) 血液

試料	測定項目	取扱い上の注意
B	ヘモグロビン濃度、血小板数、白血球数、赤血球数、ヘマトクリット値、平均赤血球容積	<p>市販管理血球です。サンプル到着後は冷蔵保存してください。(凍結厳禁) 感染性の完全な否定はできませんので、取り扱いには十分注意してください。</p> <p>[装置の測定条件] (1) マニュアルとクローズドの測定モードがある場合、マニュアルモードで測定してください。 (2) 患者検体を測定するモードで測定してください。 (3) CBCのみ(白血球分画等なし)のモードで測定をお願いします。CBCのみにできない機種はそのまま測定してください。なお、赤芽球等を白血球から除外する機能を有する機種の場合、除外前の白血球数で報告してください。 (4) ヘモグロビン測定において、シアンを用いるか用いないかの方法選択ができる機種については、通常業務で用いている方法で行ってください。</p> <p>[試料の準備と測定] 室温に15分間静置後、静かに転倒混和ときりもみを繰り返し行い、十分に混和してください。(激しく振ることは絶対に避けてください) よく混和された状態で、直ちに測定してください。 報告値については、「測定機種に依存する注意事項について」を参照してください。</p>

○測定機種に依存する注意事項について

該当の機種である場合、表に記載の注意事項に従って測定しデータの報告をお願いします。

メーカー	機種	内容
シスメックス	KX-21, 21N, 21NV,	検体と同様に測定する。
	K-4500	マニュアルモードで検体測定と同様に測定する。
	XE-2100, 2100L, 2100D, 5000	マニュアルモードでCBC項目のみを選択して検体測定と同様に測定する。
	XT-2000i, 1800i, 4000i	マニュアルモードでCBC項目のみを選択して検体測定と同様に測定する。
	pocH-100i, 100iV	検体測定と同様に測定する。
	XS-1000i, 800i, 500i	マニュアルモードでCBC項目のみを選択して検体測定と同様に測定する。
	XN-1000, 2000, 3000, 9000	マニュアルモードでCBC項目のみを選択して検体測定と同様に測定する。白血球数の報告には“TNC-N”(WNRチャンネルで測定した総有核細胞数)を使用する。 <データ確認方法> ブラウザ画面-Serviceタブをクリック-WNRを選択-画面中央の“TNC-N”を確認 ※TNC-Nについて不明な点はメーカーへ問合せください。
	XN-350, 450, 550	マニュアルモードでCBC項目のみを選択して検体測定と同様に測定する。
	XP-100, 300	検体測定と同様に測定する。
	アボットジャパン	セルダイン3700
セルダイン3200		通常表示されるWBC数(WOC:白血球光学的計測)を報告する。 ※WOCについて不明な点はメーカーへ問合せください。
セルダインサファイア		WBC:通常は表示されたWBC数を報告し、NRBCが表示された場合はWBC数にNRBC数を足した数値を報告する。 PLT:PLTi(電気抵抗法血小板測定)の数値を報告する。
セルダインルビー		WBC数:コントロール測定モードで測定し、NOC(有核細胞数計測)を報告する。 ※コントロール測定モードについて不明な点はメーカーへ問合せください。
日本光電工業	MEK-6108, 6208, 6308	静脈血モードで測定する。
	MEK-6318, 7222	静脈血モードで測定する。
	MEK-8222	手動測定-通常手動で測定する。
	MEK-6400, 6420	オープンモード-通常で測定する。
	MEK-6500, 6510	オープンモード-通常で測定する。
	MEK-7300	オープンモード-通常手動で測定する。
	MEK-5103, 5105, 5204, 5207, 5216	通常モードで測定する。
MEK-5108, 5208	通常モードで測定する。	
エイアンドティー	記載すべき、注意事項なし	
堀場製作所フクダ電子	Pentra 120	マニュアル測定にて、CBC測定を検体測定と同様に測定する。
	FLC-220, FLC-240, FLC-240A, FL-250CBC, LC-550CBC, LC-660, LC-661	検体測定と同様に測定する。
	FL-270CRP, FL-275CRP, FL-278CRP, LC-170CRP, LC-175CRP, LC-178CRP, LC-667CRP, LC-687CRP	CBCモードで検体測定と同様に測定する。
	Pentra 60	CBCモードで検体測定と同様に測定する。
	Pentra 80, Pentra XL80	マニュアル測定で、CBCモードにて検体測定と同様に測定する。
	Pentra MSCRP	DIFFモードで検体測定と同様に測定する。
ベックマン・コールター	DxH/LH700シリーズ	WBC: UWBC値を白血球数として報告する。
シーメンスHCD	ADVIA120/2120/2120i	測定項目は、CBCモードを選択し、マニュアルオープンチューブサンプラー(OTS)から測定する。 万一CBC/DIFFモードを選択して測定した場合は、WBC報告値は必ずWBCB値を採用する。 ※WBCBについて不明な点はメーカーへ問合せください。
	ADVIA360/560/560AL	コントロール測定モードで測定する。 ADVIA560ALはマニュアルモードで測定する。 ※コントロール測定モードについて不明な点はメーカーへ問合せください。

6. 成績報告締切: 令和2年11月2日(月) 23:59

7. 報告(臨床化学・血液)

1) 日臨技システムでの報告となります。日本臨床衛生検査技師会のHPよりJAMT QCに入っていただき、参加登録、試料到着の登録を実施後、システムにて報告をお願いいたします。

2) 登録方法、回答入力方法については、「参加登録・回答入力要項」を参照してください。

3) 微生物（薬剤感受性）

試料の配布日時：中継施設への郵送・運搬 令和2年10月26日（月）～27日（火）
：参加施設への受領 令和2年10月28日（水）～11月13日（金）

- 1 検査開始日 試料を受取り次第（可能であれば10月30日までに）、検査を開始してください。
- 2 検査項目 試料中に含まれる病原細菌のアンピシリン（ABPC）、アモキシシリン/クラバン酸（AMPC/CVA）、セフトキシム（CTX）3薬剤について薬剤感受性検査を実施してください。
- 3 検査方法 各施設で日常的に行っている方法で実施してください。
※薬剤感受性の判定は、Clinical and Laboratory Standards Institute（CLSI）M100S22の基準を用いてください。
- 4 試料 試料C（Haemophilus influenzae）を用いて実施してください。
- 5 試料の取扱い 試料は検査開始まで冷蔵保存してください。また、試料には病原細菌が含まれていますので、取扱いには十分注意してください。
- 6 試料の調整 試料Cはシードスワブ3号（栄研化学）にて保存してあります。
※平板培地（チョコレート寒天培地等）にひろげた後、独立集落を釣菌してください。
(可能であれば炭酸ガス培養で行ってください。)
- 7 報告期限 令和2年11月13日（金）締め切り
- 8 報告方法 日臨技システムでの報告となります。日本臨床衛生検査技師会のHPよりJAMT QCに入ってください、参加登録、試料到着の登録を実施後、システムにて報告をお願いします。回答入力方法については、「参加登録・回答入力要項」を参照してください。
- 9 記入上の注意 「参加登録・回答入力実施要項」を熟読うえ、記入漏れのないようにしてください。
- 10 評価について A～D評価で評価設定を行います。

4. 生涯教育

近藤 善仁

各検査研究班・各支部担当者にご尽力いただき、行事登録および参加者登録を行っていただいた。本年度は新型コロナウイルス感染拡大により上半期の研修会は中止となったが、各部門長・各支部長のご尽力により10月からZoomを用いたWeb研修を順次開催した。Web研修会参加者は事前登録を原則とし、ログイン時に氏名と日臨技会員番号をアカウント名とすることで本人確認を行い、研修会終了後、ログデータを元に生涯教育の登録を行った。しかし、ログイン時のアカウント名の不備など本人確認ができない参加者も散見された。突然対応を余儀なくされた研修会様式の変化に主催側や参加側も戸惑いや不慣れな点も多くあったが、迅速かつ柔軟に対応していただき全体として大きな問題はなかった。関係各位に感謝いたしたい。尚、日臨技より支給される「生涯教育推進研修会助成金」の交付額は、6研修会が対象となり、計298,000円円を受け取ることができた。

広報部

副会長 坂西 清

今年度も、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの運営を軸に全会員にリアルタイムに情報の提供が出来るよう心がけて運営をしてきた。ホームページは即時に会員にお知らせできる事から、有益な情報をできるだけ早く掲載することに努めた。また、今年度は文書発送についてシステムを用いて、メールにて各

施設に理事会終了後に発行する新臨技ニュース・各種案内や文書を発信し、即時性を重視し情報発信を行ってきた。会誌に関しても、研修会、学会の開催が難しい中、Web研修会の内容や認定技師精度紹介、施設紹介など会員に親しみやすい内容から、学術的な内容まで幅広い内容の会誌発行を務めてきた。

1) 新臨技会誌

神林 真弓

〔講義・研究〕基礎的な内容から最新の情報まで幅広い分野において掲載した。

〔研修会報告〕今年度は研修会や学会の現地開催が難しいことから原稿を集めることができずにいたが、Webを用いた勉強会が普及したことにより少しずつ依頼ができるようになってきた。参加した会員の協力を得て、参加できなかった会員の方にも講義内容をお伝えできる頁とした。

〔認定技師制度紹介〕臨床検査技師に関わる様々な認定資格を紹介し、スキルアップに繋がる情報を提供した。

〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の奮闘記～〕

誰もが参加でき、新入会員の紹介や会員の日常、職場での活躍ぶりを掲載することで会員同士の繋がりを深める頁となった。

〔公益活動参加報告〕コロナ禍にてほとんどの公益活動は中止、不参加となった。

〔施設紹介〕病院から検診センター、研究所など様々な施設の紹介をすることで、施設情報の共有を図った。

〔学会参加報告〕新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

年4回 季刊発行（315号から318号まで）

〈令和2年度会誌掲載内容〉

315号 令和2年4月1日

〔講義〕

臨床現場即時検査：POCTの現状と将来

岡 尚人

負荷心筋血流シンチグラフィの有用性と読影について

中川 雄介

〔篠川至賞とは〕篠川至賞について

坂西 清

〔お知らせ〕第94回新潟県臨床検査学会案内（予告）メインテーマ募集のお知らせ

〔研修会参加報告〕

令和元年度中越支部ふれあい研修会に参加して

長谷川一稀

第2回下越支部研修会に参加して

吉川 早紀

ベッドサイド実践講習会の参加報告

山田 将也

2019年度心電図セミナーに参加して

宮田 千穂

第41回新潟病理技術研究会に参加して

戸田裕一郎

〔施設紹介〕社会医療法人新潟勤労者医療協会 かえつクリニック

高橋 真帆

〔認定技師制度紹介〕認定輸血検査技師

大倉 一晃

〔ペンリレー〕

樋口 京花

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

難波 大希、小杉 和也、松崎 沙織、小野 大智、小熊 裕弥、星野 有香、関谷 有希

〔会報〕

令和2年度通常総会議案書

2019年度第5回理事会議事録

2019年度12月常任理事会議事録

2019年度第6回理事会議事録

新入会員紹介
新臨技会日誌

〔行事予定〕

〔編集後記〕

316号 令和2年7月1日

〔講義〕

凝固波形解析について

小田由紀夫

乳がんの基礎とマンモグラフィの読影について

小山内彩乃

〔受賞者の言葉〕

篠川至賞を受賞して

小柳 敬子

生涯教育新人賞を受賞して

生田 泰豊

〔お知らせ〕第94回新潟県臨床検査学会の中止について

〔研修会参加報告〕

令和元年度第3回下越支部研修会に参加して

清水 留美

上越支部春季研修会に参加して

阿部 彰

令和元年度 第2回新潟支部研修会に参加して

坂井 路子

〔施設紹介〕医療法人社団真仁会 五泉中央病院

小林 宏一

〔認定技師制度紹介〕日本臨床神経生理学会 専門技術師（筋電図・神経伝導分野）

藤井 佳子

〔ペンリレー〕

大塚 彩菜

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

福原 祐斗、吉川 早紀、伊花 遥夏、宮田 千穂、大津 桃子、

白川 杏花、瀬沼 祥輝、石塚 爽香、堀澤 尚史

〔会報〕

2019年度 監査報告書

2019年度 公益目的支出計画実施報告書

2020年度 一般社団法人新潟県臨床検査技師会 通常総会議事録

令和2年度通常総会からのアンケート

お詫びと訂正

2020年度（令和2年度）書面による理事会議事録

新入会員紹介

新臨技会日誌

〔編集後記〕

317号 令和2年10月1日

〔講義〕

高速PCR・QProbe法による遺伝子迅速検出と診療への貢献

藤本 聖人

当院病理検査室における外部委託検査の現状～肺癌を中心に～

徳永 直樹

〔特集～新型コロナウイルス～〕

検査技師一年目の戦い - パンデミックにどう立ち向かうか

井野恵理花

〔施設紹介〕独立行政法人労働者健康安全機構 新潟労災病院

佐藤まゆみ

〔認定技師制度紹介〕血管診療技師について

小林 清子

[ペンリレー] 石黒 杏佳
[検査技師として～私の奮闘記～]
松井 杏華、中嶋 惇人、常木菜々恵、久連山大介、小林亜矢音、石井 宏樹、横内ゆいり、小池 椎
[会報]
2020年度（令和2年度）書面による第2回理事会議事録
2020年度（令和2年度）Zoomによる第3回理事会議事録
新入会員紹介
新臨技会日誌
[編集後記]

318号 令和2年1月1日
[あいさつ] 年頭のご挨拶 渡邊 博昭
[講義]
プレセプシン総論 白川 嘉門
ALP・LD測定法のIFCC法への変更について 大倉 一晃
[受賞者の言葉] 篠川至賞を受賞して 白川千恵子
[研修会参加報告]
令和2年度の臨床検査総合部門研修会 横山 和宏
「新型コロナウイルス感染症の診断を目的としたPCR検査のための鼻咽頭拭い液の採取に関する研修会」
に参加して 大原 陽
[施設紹介] 新潟県立十日町病院 草間 孝行
[認定技師制度紹介] 認定救急検査技師について 高橋 政江
[ペンリレー] 石田 櫻子

[検査技師として～私の奮闘記～]
丸山菜々子、高橋 恵美、原 大樹、須貝 咲奈、渡辺里佳子、堀川 貴之、
齋藤 愛望、デシルバ ロイ直基
[会報]
2020年度（令和2年度）Zoomによる第4回理事会議事録
2020年度（令和2年度）Zoomによる10月常任理事会議事録
新入会員紹介
新臨技会日誌
[行事予定]
[編集後記]

2) 新臨技ニュース 佐藤 卓

理事会議事要旨、組織活動、求人情報など速報性・実用性のある情報を掲載してきた。またメール文書配信システム導入に伴いより迅速に各施設に届くように努めてきた。発行は理事会終了後の月1回とした。

3) 新臨技ホームページ 近藤 善仁

ホームページは研修会案内・各支部活動・お知らせ・求人情報などをリアルタイムに掲載し、ネット環境があれば、いつでも閲覧可能となっている。本年度は新型コロナウイルス感染拡大で、情報が錯綜し日々変化する状況であったが、会員へ有益な情報があればトピックス等に掲載するよう心がけた。上半期は研修会の開催

ができず行事予定のページの更新がなかったが、メール文書配信システムの稼働にあたり登録フォームのページを作成した。登録フォームは新規登録や登録内容変更、配信中止など引き続き運用していく。

【主要行動報告】

1. 4月30日 第1回理事会（書面開催）
2. 5月30日 令和2年度通常総会
3. 6月4日 北日本支部会議（オンライン）に渡邊会長参加
4. 6月26日 第1回精度管理委員会開催（WEB会議）
5. 6月27日 第2回理事会（書面開催）
6. 6月29日 公益社団法人新潟県健康づくり財団第18回定時評議会へ渡邊会長出席
7. 7月4日 日臨技理事会へ桑原副会長 Web 出席
8. 7月7日 ピンクリボンホリデー2020実行委員会へ五十嵐理事 Web 出席
9. 8月1日 第3回理事会（Web開催）
10. 8月4日 令和2年度第1回臨床検査精度管理協議会に坂西副会長、草間理事出席
11. 8月29日 学術部門会議（Web開催）
12. 9月4日 日臨技理事会（Web開催）へ桑原副会長出席
13. 9月12日 第4回理事会（Web開催）
14. 10月10日 10月常任理事会（Web開催）
15. 10月25日 新潟県臨床検査精度管理試料発送
16. 11月14日 第5回理事会（Web開催）
17. 11月15日 鼻咽頭拭い液の採取に関する研修会開催
18. 12月1日 日臨技ピペット編集会議（Web開催）へ桑原副会長出席
19. 12月2日 日臨技北日本支部幹事会（Web開催）へ桑原副会長出席
20. 12月3日 日臨技事前レク（Web開催）へ桑原副会長出席
21. 12月4日 日臨技理事会（Web開催）へ桑原副会長出席
22. 12月11日 新潟薬科大学下條学長と渡邊会長面談
23. 12月12日 12月常任理事会（Web開催）
24. 12月15日 ピンクリボンホリデー2020実行委員会へ五十嵐理事出席（Web開催）
25. 1月16日 第6回理事会
26. 1月19日 第12回新潟県救急搬送・受入協議会（新潟県庁）へ古谷技師出席
27. 1月21日 第2回新潟県臨床検査精度管理協議会へ坂西副会長・草間理事出席
28. 1月22日 日臨技理事会事前レク（Web）桑原副会長出席
29. 1月23日 日臨技理事会（Web）桑原副会長出席
30. 1月28日 小島三郎賞推薦 畔上副会長推薦書送付
31. 1月31日 新型コロナウイルスの検査に関する PCR 実技研修会
32. 2月7日 新型コロナウイルスの検査に関する PCR 実技研修会
33. 2月12日 令和2年度第1回日臨技北日本支部内連絡会議（Web）桑原副会長出席
34. 2月13日 第7回理事会
35. 2月20日 新潟支部総会へ畔上副会長出席
36. 2月23日 PCR 実技研修会開催
37. 2月28日 新型コロナウイルス感染症の診断を目的とした PCR 検査のための鼻腔咽頭拭い液の採取に関する研修会

38. 2月27日 上越支部総会に坂西副会長出席 (Web)
39. 3月5日 令和2年度 新潟県臨床検査精度管理調査検討会に草間理事出席
40. 3月7日 PCR実技研修会開催
41. 3月9日 2021年度新潟はっぴー乳ライフ実行委員会へ五十嵐理事出席 (Web)
42. 3月13日 中越支部総会に桑原副会長出席
43. 3月20日 第8回理事会

事業報告に関わる附属明細書

事業報告を補足する事項はない。

令和2年度収支決算報告

貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	9,243,578	7,947,556	1,296,022
前払金	24,081	38,985	△ 14,904
未収金	911,158	0	911,158
流 動 資 産 合 計	10,178,817	7,986,541	2,192,276
2. 固定資産			
会館建設引当預金	15,268,000	15,268,000	0
共済基金	1,724,000	1,724,000	0
篠川至賞基金	11,105,166	11,104,741	425
固 定 資 産 合 計	28,097,166	28,096,741	425
資 産 合 計	38,275,983	36,083,282	2,192,701
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	8,131,500	8,242,000	△ 110,500
流 動 負 債 合 計	8,131,500	8,242,000	△ 110,500
2. 固定負債			
固 定 負 債 合 計	0	0	0
負 債 合 計	8,131,500	8,242,000	△ 110,500
III. 正味財産の部			
一般正味財産	30,144,483	27,841,282	2,303,201
(うち特定資産への充当額)	(28,097,166)	(28,096,741)	(425)
負債及び正味財産合計	38,275,983	36,083,282	2,192,701

正味財産増減計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	8,804,500	8,890,500	△ 86,000
正会員受取会費	7,584,500	7,650,500	△ 66,000
賛助会員受取会費	1,220,000	1,240,000	△ 20,000
事業収益	1,591,158	2,866,500	△ 1,275,342
参加費収益	0	1,666,500	△ 1,666,500
会誌広告収益	680,000	1,200,000	△ 520,000
受託事業収益	911,158	0	911,158
受取補助金等	560,600	1,762,800	△ 1,202,200
受取民間助成金	560,600	1,762,800	△ 1,202,200
雑収益	1,296	700,934	△ 699,638
受取利息	1,296	48,449	△ 47,153
協賛金収益	0	530,000	△ 530,000
雑収益	0	122,485	△ 122,485
経常収益計	10,957,554	14,220,734	△ 3,263,180
(2) 経常費用			
事業費	5,716,209	11,095,358	△ 5,379,149
学会費	756	1,633,354	△ 1,632,598
運営費	888,418	611,223	277,195
学術部活動費	886,919	2,332,442	△ 1,445,523
学術雑費	50,443	124,369	△ 73,926
臨床検査精度保証費	285,678	343,091	△ 57,413
会誌発行費	2,601,588	3,710,736	△ 1,109,148
広報編集費	438,308	417,864	20,444
組織広報費	7,000	1,058,969	△ 1,051,969
災害対策費	0	122,126	△ 122,126
生涯教育表彰事業費	55,174	239,259	△ 184,085
組織強化費	501,925	501,925	0
管理費	2,938,144	5,383,135	△ 2,444,991
備品費	48,840	160,820	△ 111,980
消耗品費	45,699	99,934	△ 54,235
印刷費	118,059	511,888	△ 393,829
通信費	249,968	866,777	△ 616,809
交通費	0	44,670	△ 44,670
渉外対策費	55,655	162,990	△ 107,335
給料手当	498,000	594,000	△ 96,000
会議旅費	453,000	1,087,340	△ 634,340

事務所維持管理費	1,194,601	1,321,015	△ 126,414
電話費	82,082	82,383	△ 301
事務所雑費	1,741	7,364	△ 5,623
交際費	33,065	108,071	△ 75,006
総会費	157,434	335,883	△ 178,449
雑費	0	0	0
経常費用計	8,654,353	16,478,493	△ 7,824,140
評価損益等調整前当期経常増減額	2,303,201	△ 2,257,759	4,560,960
基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等			
投資有価証券評価損益等			
評価損益等計			
当期経常増減額	2,303,201	△ 2,257,759	4,560,960
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額			
他会計振替額			
当期一般正味財産増減額	2,303,201	△ 2,257,759	4,560,960
一般正味財産期首残高	27,841,282	30,099,041	△ 2,257,759
一般正味財産期末残高	30,144,483	27,841,282	2,303,201
II 指定正味財産増減の部			
III 正味財産期末残高	30,144,483	27,841,282	2,303,201

正味財産増減計算書内訳表
令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位:円)

科 目	実施事業等会計					その他会計					法人会計	内部取引 消去	合計	
	検査学会 研修費	臨床検査 精度保証費	広報費	共通	小計	生涯教育 表彰事業費	組織 強化費	その他	共通	小計				
I 一般正味財産増減の部														
1. 経常増減の部														
(1) 経常収益														
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,804,500	0	8,804,500	
正会員受取会費					0						7,584,500		7,584,500	
賛助会員受取会費					0						1,220,000		1,220,000	
事業収益	911,158	0	680,000	0	1,591,158	0	0	0	0	0	0	0	1,591,158	
参加費収益	0				0						0	0	0	
会誌広告収益			680,000		680,000						0	0	680,000	
受託事業収益	911,158				911,158								911,158	
受取補助金等	360,600	200,000	0	0	560,600	0	0		0	0	0	0	560,600	
受取民間助成金	360,600	200,000			560,600						0	0	560,600	
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,296	0	1,296	
受取利息					0						1,296		1,296	
協賛金収益					0						0	0	0	
雑収益					0						0	0	0	
経常収益計	1,271,758	200,000	680,000	0	2,151,758	0	0	0	0	0	8,805,796	0	10,957,554	
(2) 経常費用														
事業費	1,826,536	285,678	3,046,896	0	5,159,110	55,174	501,925	0	0	557,099		0	5,716,209	
学会費	756				756						0		756	
運営費	888,418				888,418						0		888,418	
学術部活動費	886,919				886,919						0		886,919	
学術雑費	50,443				50,443						0		50,443	
臨床検査精度保証費		285,678			285,678						0		285,678	
会誌発行費			2,601,588		2,601,588						0		2,601,588	
広報編集費			438,308		438,308						0		438,308	
組織広報費			7,000		7,000						0		7,000	
災害対策費			0		0						0		0	
生涯教育表彰事業費					0	55,174				55,174			55,174	
組織強化費					0		501,925			501,925			501,925	
管理費		0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,938,144		2,938,144	
備品費											48,840		48,840	
消耗品費											45,699		45,699	
印刷費											118,059		118,059	
通信費											249,968		249,968	
交通費											0	0	0	
渉外対策費											55,655		55,655	
給料手当											498,000		498,000	
会議旅費											453,000		453,000	
事務所維持管理費											1,194,601		1,194,601	
電話費											82,082		82,082	
事務所雑費											1,741		1,741	
交際費											33,065		33,065	
総会費											157,434		157,434	
雑費											0	0	0	
経常費用計	1,826,536	285,678	3,046,896	0	5,159,110	55,174	501,925	0	0	557,099	2,938,144	0	8,654,353	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 554,778	△ 85,678	△ 2,366,896	0	△ 3,007,352	△ 55,174	△ 501,925	0	0	△ 557,099	5,867,652	0	2,303,201	
基本財産評価損益等					0						0		0	
特定資産評価損益等					0						0		0	
投資有価証券評価損益等					0						0		0	
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当期経常増減額	△ 554,778	△ 85,678	△ 2,366,896	0	△ 3,007,352	△ 55,174	△ 501,925	0	0	△ 557,099	5,867,652	0	2,303,201	
2. 経常外増減の部														
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
他会計振替額					0						0		0	
当期一般正味財産増減額	△ 554,778	△ 85,678	△ 2,366,896	0	△ 3,007,352	△ 55,174	△ 501,925	0	0	△ 557,099	5,867,652	0	2,303,201	
一般正味財産期首残高					0						0		27,841,282	
一般正味財産期末残高													0	30,144,483
II 指定正味財産増減の部														
III 正味財産期末残高														30,144,483

財 産 目 録

令和3年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	325,615		
普通預金			
第四銀行臨港支店	8,758,578		
ゆうちょ銀行	159,385		
前払金	24,081		
未収金	911,158		
流動資産合計		10,178,817	
2. 固定資産			
会館建設引当預金			
第四銀行臨港支店（定期4口）	10,000,000		
ゆうちょ銀行（定額5口）	5,268,000		
共済基金			
ゆうちょ銀行（定額3口）	1,724,000		
篠川至賞基金			
北越銀行県庁支店（定期3口）	5,004,166		
ゆうちょ銀行（定額3口）	6,101,000		
固定資産合計		28,097,166	
資産合計			38,275,983
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	8,131,500		
流動負債合計			
2. 固定負債	0		
固定負債合計		0	
負債合計			8,131,500
正味財産			30,144,483

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
小 計	-	-	-	-
特定資産				
会館建設引当預金	15,268,000	-		15,268,000
共済基金	1,724,000	-		1,724,000
篠川至賞基金	11,104,741	425		11,105,166
小 計	28,096,741	425		28,097,166
合 計	28,096,741	425		28,097,166

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
小 計	-	-	(-)	-
特定資産				
会館建設引当預金	15,268,000	-	(15,268,800)	-
共済基金	1,724,000	-	(1,724,000)	-
篠川至賞基金	11,105,166	-	(11,105,166)	-
小 計	28,097,166	-	(28,097,166)	(-)
合 計	28,097,166	-	(28,097,166)	(-)

4. 助成金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

助成金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりです。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
助成金						
受取検査学会研修助成金	日本臨床衛生検査技師会	0	360,600	360,600	0	
受取臨床検査精度保証助成金	新潟県医師会	0	200,000	200,000	0	
合 計		0	560,600	560,600	0	

計算書類に係わる附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表に対する注記2「基本財産及び特定資産の増減及びその残高」及び注記3「基本財産及び特定資産の財源等の内訳」に記載しているため省略する。

【上越支部】

支部研修会

1 秋季研修会：第115回上越支部研修会（Web 開催）

日時：令和2年12月12日（土）Zoomを使用したWeb開催

講演1

- ・新型コロナウイルスに関する最新のTopics

デンカ（株）ライファイノバージョン部門 ワクチン・診断薬事業部 試薬学術部 前側 恒男 先生

講演2

- ・夜間当直者と若手検査技師のための凝固検査の知っておきたい基礎知識

（凝固反応の基礎から遭遇する可能性のある検査異常値まで）

積水メディカル（株） 須長 宏行 先生

参加者49名（上越支部会員33名 他支部16名）

2 春季研修会：第116回上越支部研修会（Web 開催）

日時：令和3年2月27日（土）Zoomを使用したWeb開催

講演

- ・急性冠症候群における高感度トロポニン測定の重要性

株式会社 LSI メディエンス 診断薬事業本部 学術部 かみながさ ゆり 神永紗由里 先生

参加者47名

研究班活動

1 検体研究班（臨床化学部門・微生物部門）

日時：令和元年10月10日（木）

令和2・3年度班長：県立中央病院 石田 櫻子

新型コロナウイルス感染拡大影響のため、研修会は実施できなかった。

「ウイルス学の基礎」の資料を会員に発送した。

2 形態検査研究班（血液部門・血清部門・病理部門・一般部門）

令和2・3年度班長：糸魚川総合病院 小玉瑛里樺

新型コロナウイルス感染拡大影響のため、研修会は実施できなかった。

「シスメックス一般検査 Liveセミナー2020」をシスメックス（株）様のご協力で紹介した。

3 生理検査研究班（生理検査部門）

令和2・3年度班長：県立中央病院 大山 葵

令和3年3月2日（火）

「腹部領域の基礎（肝・胆・膵）」（Microsoft Teams による Web 開催）

獨協医科大学埼玉医療センター 副院長・消化器内科教授 玉野 正也 先生

地域保健活動

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催が無かった。

広報活動（上越支部会員向け）

支部だよりを第220号から第221号まで計2回発行。

役員会議

2020年（令和2年）

年度前半は、メールでの協議を随時行った。

11月19日（木）定例役員会（ZoomによるWeb開催）

12月17日（木）定例役員会（ZoomによるWeb開催）

2021年（令和3年）

1月21日（木）定例役員会（ZoomによるWeb開催）

2月18日（木）定例役員会（ZoomによるWeb開催）

令和2年度通常総会

日時：令和3年2月27日（土）

ZoomによるWeb開催

【中越支部】

〈研修会〉

令和2年度第1回中越支部研修会（Zoom開催）[生涯教育認定 基礎20 参加 45名]

日時：令和2年12月19日（土）15：00～16：30

場所：Zoomを用いたWeb開催

講演：『採血手技と採血管取扱いにおける基礎的な注意点～採血管の基礎：検体取り扱いのポイントから標準採血法ガイドライン（GP4-A3）の変更点まで～』

講師：積水メディカル株式会社 須長 宏行 先生

〈通常総会〉

令和2年度中越支部通常総会は3月に開催を予定していたが、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大を受け現地開催を中止した。急遽県技師会ホームページ上に議案書及び会計監査報告書を掲載し、会員より閲覧による議案審議の上、意見を募った。掲載期間を3月31日までとし、掲載終了をもって議案承認とさせてもらった。

〈公益事業〉

例年複数の公益事業に参加していたが、今年度は新型コロナウイルスの全国的な感染拡大を受け多くのイベントの開催が中止となった。一部年度後半に延期開催となったイベントもあったが、感染回避の行動指針に則り参加を辞退した。

〈支部理事会〉

第1回理事会 令和2年5月28日（木）【現地開催を見合わせメール審議とした】

議題：支部研修会開催について

今年度公益事業参加予定について

第2回理事会 令和2年6月25日（木）【現地開催を見合わせメール審議とした】

議題：支部研修会開催について

今年度公益事業参加予定について

第3回理事会 令和2年7月31日(金)【現地開催を見合わせメール審議とした】

議題: Web研修会、Web会議開催について

今年度公益事業参加可否について

第4回理事会 令和2年8月27日(木)【現地開催を見合わせメール審議とした】

議題: Web研修会、Web会議開催について

今年度公益事開催予定と参加可否について

第5回理事会 令和2年9月26日(土) 16:00~【Zoom会議】

議題: Web研修会の企画・運営について

支部役員改選について

第6回理事会 令和2年10月31日(土) 16:00~【Zoom会議】

議題: Web研修会の企画・運営について

支部役員改選について

第7回理事会 令和2年11月28日(土) 16:00~【Zoom会議】

議題: Web研修会の企画・運営について

支部講演会・総会開催について

支部役員改選について

第8回理事会 令和2年12月25日(金)【メール審議】

議題: Web研修会の企画・運営について

支部講演会・総会開催について

支部役員改選について

第9回理事会 令和3年1月30日(土) 16:00~【Zoom会議】

議題: Web研修会の企画・運営について

支部講演会・総会開催について

支部役員改選・支部役員選出委員会開催について

次年度支部研修会開催について

第10回理事会 令和3年2月26日(金)【メール審議】

議題: 中越支部講演会・通常総会について

次年度支部研修会開催について

【下越支部】

〈研修会等〉

(1) 第1回支部研修会(Web開催)

日時: 令和3年3月13日(土) 14:00~15:30

場所: 各施設、自宅等

内容: 夜間当直者と若手検査技師のための血液凝固検査の基礎知識

(遭遇する可能性のある凝固検査の異常値からCOVID-19の血栓症まで)

講師 積水メディカル株式会社 須長 宏行 先生

参加者: 33名

生涯教育認定基礎20点

(2) 下越支部総会(議決権行使書)

日時: 令和3年3月13日(土) 15:40~16:00

場所: (一財)下越総合健康開発センター2階大講堂

〈下越支部理事会〉

今年度は、支部研修会打合せ等で3回開催した。

第1回：10月16日（Web会議）

第2回：1月22日（Web会議）

第3回：3月13日開催

〈ホームページ〉

下越支部ホームページについては研修会の案内など更新した。

〈アンケート〉

今後の支部活動の参考とするため総会議決権行使書にアンケート欄を設けた。

【佐渡支部】

〈研修会等〉

1) 研修会

COVID-19の影響により、開催できませんでした。

2) 支部総会

日時 令和3年3月6日（土）10：00～（受付9：45～）

会場 佐渡総合病院 2階講堂

※ COVID-19の影響により、総会のみで開催となりました。

〈公益事業〉

COVID-19の影響により、例年行われている島内の公益事業は中止。

〈支部役員会〉

COVID-19の影響により、集合しての役員会は行わなかった。

必要時にメールにて審議を行った。

【新潟支部】

〈研修会等〉

【令和元年度第2回新潟支部研修会】2020/02/23

参加人数：48名

●学生でも分かる放射線画像の基礎

能登 義幸（新潟大学医歯学総合病院 放射線部門）

（臨床化学研究班）

なし

（血液研究班）

なし

（生理研究班）

なし

(一般検査研究班)

令和2年6月に尿沈渣教育用のスライドを作成し、新潟県臨床検査技師会 HP に掲載した。

作成者 白川千恵子 (新潟医療技術専門学校)

小野 篤史 (済生会新潟病院)

(病理研究班)

なし

(微生物検査研究班)

なし

(公益活動, その他)

【令和元年度新潟支部定期総会】2020/02/23

参加人数：35名

総会及び幹事会

1) 支部定期総会・第1回 新潟支部幹事会

令和2年2月23日(日) 新潟大学医歯学総合病院 (12階大会議室)

2) 第2回 新潟支部幹事会

令和2年9月23日(水) 18:30～ Zoom による Web 開催

3) 第3回 新潟支部幹事会

令和2年10月28日(水) 18:30～ Zoom による Web 開催

4) 第4回 新潟支部幹事会

令和2年11月18日(水) 18:30～ Zoom による Web 開催

5) 第5回 新潟支部幹事会

令和2年12月16日(水) 18:30～ Zoom による Web 開催

6) 第6回 新潟支部幹事会

令和3年1月20日(水) 18:30～ Zoom による Web 開催

7) 第7回 新潟支部幹事会

令和3年2月20日(水) 総会終了後

第3号議案

監査報告について

第4号議案

文書配信システムのメールアドレスの災害時メーリングリストへの使用について

平成25年度より運用している災害時メーリングリストのシステムが古く、サーバーが停止状態になることから、昨年度より運用開始した文書配信システムのメールアドレスを災害時の連絡用のメーリングリストとして使用したい。

第5号議案

支部提出議案について

各支部からの提出議案はなかった。

第6号議案

日臨技定時総会提出議案について

日臨技定時総会への提出議案はなかった。

第7号議案

次年度役員選出について

令和3年度事業計画

会長

渡邊 博昭

令和3年度は役員改選期であるが、基本的には事業をそのまま引き継ぐとともに、新しい生活様式対応した技師会活動を試行錯誤しながら検討を進め、とどこおりなく会務を遂行する。
新規または重要な事業を下記の通り計画する。

総務部

- ① 引き続き規定および手順書の検証をする。
- ② リモートでの会議および研修会等の運営を充実させる。

学術部

- ① 第94回新潟県臨床検査学会の企画・運営を行う。
- ② ニューリーダーの育成や職能向上・職能開発、認知症検査に関わる講習会を開催する。
- ③ タスク・シフティングに伴う講習会の準備を行う。
- ④ 検査研究部門活動の助成金申請制度を20研修会申請する。

広報部

- ① ホームページのさらなる充実を図る。

1. 会務の執行体制

令和3年度は役員改選期にあたるため、円滑な業務運営を進めるためにも、各種規定・マニュアル等の周知に努めたい。

また、活動の要である事務局機能は各県技師会および日臨技との連絡・調整の場として、更なる会員サービスの向上に努めたい。組織強化の面からは、日臨技、北日本支部、新臨技支部、会員各位と協力しながら情報交換を図り、一人でも多くの会員から技師会の意義を感じ取ってもらえる環境・体制を整えたい。

2. 諸会議

1) 理事会・常任理事会

新型コロナウイルス感染拡大防止を図りつつ連携を密にするために、会議方法は Zoom による WEB 開催を実施し、総会に次ぐ議決機関として理事会・常任理事会を開催したい。

2) 三役会議・各部会議

諸会議の立案や各種業務内容の検討・調整を図るため、必要に応じて適宜開催する。

3) 各種委員会

本会活動の要としての役割を担っており、本年度も更に活発に運営して行きたい。

災害支援マニュアルにある災害支援メーリングリストは、災害時の支援活動や会員の安否確認に威力を発揮できるものであり、会員登録者を増やしていきたい。

3. 組織対策

1) 臨床検査セミナー

通常総会と同時開催する臨床検査セミナーは、技師会事業として定着していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催は延期する。

2) 各支部との連携

各支部持ち回りの新潟県臨床検査学会開催については、会場確保および参加人数等の問題もあり、第91回から新潟市で開催している。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りつつ、学術部と支部との連携を強化するとともに、本会の事業方針の展開と臨床検査の発展を目指したい。

3) 入会対策

益々厳しくなる医療情勢ではあるが、職能団体としての機能をさらに発揮するためには組織拡大と成熟が重要であり、各支部各施設の理解と協力を得ながら新入会員を確保して行きたい。また、臨床検査技師のさらなる地位向上および職域拡大を進めるためにも、臨床検査技師連盟への入会促進に積極的に働きかけていく。

4. 公益活動（地域保健医療活動）

令和3年度も新型コロナ渦のため、各団体の動向を見極めながらとなるが、一般社団法人として県民の保健・医療・公衆衛生の更なる向上を目指していく。臨床検査技師として、社会貢献の取り組み、全国検査と健康展など日臨技事業の開催、関連職種団体との連携強化を進め、本年度も地域保健医療活動に積極的に参画していけるよう努める。

5. 求人情報の提供

会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供したい。

6. 表彰関係

1) 篠川至賞

令和3年度で第39回となる篠川至賞は、その制定主旨により、各支部からの推薦者の中から篠川至賞選考委員会の審査を経て表彰されるものであり、会員の励みにもなっている。検査研究部門からも情報協力いただき、各支部からの積極的な推薦のうえ表彰する。

2) 会長表彰

特別功労表彰、永年会員功労表彰は、新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰委員会の審査を経て、毎年の通常総会において表彰する。

3) 生涯教育奨励賞

多くの会員の生涯教育および学術活動への参画と活性化を求め、分野に関わらず最多得点者の上位3名を表彰する。

4) 生涯教育新人賞

臨床検査教育の場としての研修会等への参加を通じ、更なる技師会活動への参画に期待し、分野に関わらず20代会員の最多得点修了者を表彰する。

5) 学会表彰

新潟県臨床検査学会で優秀な演題発表をした者を表彰する。

6) その他

各団体の表彰の基準に該当する者については積極的に推薦をしていく。

学術部

副会長 桑原喜久男

令和3年度活動計画

第94回新潟県臨床検査学会を令和3年12月4日(土)、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催を予定している。新型コロナウイルス感染症拡大の状況をみながら、開催形式を検討していきたい。検査研究部門は今年度、部門員の改選が行われた。多くの会員が参加でき、ニーズを反映した研修会や臨床検査技師を取り巻く社会の変化に対応できる知識、スキルを学ぶ機会を設け、情報を共有できる研修会を企画、運営していく。新潟県臨床検査学会においても教育セミナー等を担当いただく。日臨技の生涯教育推進事業20研修会の申請、承認を目指す。精度管理は日臨技のシステムを用い、新臨技HPにて結果の閲覧等、事務手続き等の簡素化を進めたい。医師の働き方改革に伴い、臨床検査技師へのタスクシフト/シェアが医療法改正を待って進められる見込みである。臨床検査技師の資格に新たに加わる項目であり、臨床検査技師全員が受講していただかなくてはならないものである。医療法改正を受け、Web研修に加えて、実地研修を新潟県でも資格を持つ方、全員が受講できるように準備を進めていく。

1. 学会

桑原喜久男

第94回新潟県臨床検査学会を令和3年12月4日(土)、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催を予定している。新型コロナウイルス感染症拡大の状況をみながら、開催形式を検討していきたい。

2. 検査研究部門

中村 岳史

検査研究部門が企画運営する研修会は、技師会における重要な活動の一つである。医療制度や検査技術が、日々変化していく医療現場においては新たな知識や技術を習得し実践していくことが極めて重要である。そのため、検査研究部門が企画運営する各種研修会が担う役割は大きい。

検査研究部門は、生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門(神経生理分野、呼吸・循環生理分野、超音波分野)、臨床検査総合部門(管理運営分野、救急検査分野、公衆衛生・生殖医療分野)の9部門6分野で構成され、各部門の活動費は12万円、各分野は8万円とする。今年度より新たに、臨床検査総合部門を3分野体制とし活動していく。

研修会参加費は、当事者負担の原則の下で過剰な負担が及ばない程度で運営経費を補完する。非会員の研修会参加費は会員の3倍とし、会員利益と活動費補完をはかる。また、参加は会員優先とする。

研修会開催は、オンライン研修会を基本とし新型コロナウイルス感染状況や日臨技の動向を踏まえた上で柔軟に対応する。

研修会の内容は、基礎的内容から専門性を高める内容など、様々な状況下にある会員に有益で魅力的な研修会をバランスよく開催できるよう体制を整え、企画運営にあたる。技術や知識が複数の分野に係る内容に関しては、複数部門での合同研修会や他団体との共催による研修会を企画することを奨励する。

今年度も感染状況を注視しながら、幅広い知識や技術を習得できる、会員にとって魅力ある活発な学術活動を展開していきたい。

3. 精度管理事業

坂西 清

本事業は新潟県医師会が新潟県から委託を受け、新潟県臨床検査精度管理協議会を設置して推進している事業である。本会としては、地域医療への貢献と会員の技術向上という点から重要な事業であるという位置づけで積極的に協力していく。

令和3年度も臨床化学、微生物、血球計算、血液フォトサーベイ、一般フォトサーベイをさらに充実させ実施を予定している。また臨床検査室精度保証認証制度・共用基準範囲についても多くの施設の理解が得られるよう啓発を進めていきたい。

4. 生涯教育

近藤 善仁

生涯教育研修制度は、臨床検査技師の知識や技術水準の維持・向上を目的とし、会員の自発的な学習を組織的に援助する制度である。会員は定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得する。また、ボランティア活動や臨床検査の普及のための啓発活動などに対して生涯教育行事登録を行い、活動を支援している。本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、現地開催やWeb研修会など社会状況に応じたベストな研修会を実施し生涯教育の登録を進めていく。日臨技情報総合システム（JAMTIS）の運用および「生涯教育推進研修会助成金」の申請と助成金受領の支援を引き続き図っていく。

広報部

副会長 坂西 清

令和3年度も新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの3本柱での運営を通して会員へ向けたレスポンスの良い情報を例年通り安定提供したい。また、ホームページの情報発信においては会員に有益な情報をいち早く提供していきたい。会誌においては学術的な内容を基本とする中で、様々な企画を取り入れながら会員に有益な情報を提供できる会誌を目指していきたい。県理事、各支部理事、会員全員で情報の共有化を尚一層強化するためにも、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページを充実させていきたい。

1) 新臨技会誌

神林 真弓

会誌発行は319号から322号までの年4回季刊発行を予定する。

〔講義・研究〕引き続き基礎から専門分野まで幅広く焦点を当てて掲載していきたい。

〔研修会参加報告〕今年度も参加会員の協力のもと、情報提供や会員の研鑽の頁としたい。

〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の奮闘記～〕

会員同士の親睦をはかり、多くの方が参加できるツールとしたい。

〔公益活動報告〕開催が可能になった時には是非参加し、会員には公益活動の大切さを知っていただき、ボランティア活動にも参加していただけるよう働きかける頁としたい。

〔認定検査技師制度〕認定取得者からの経験談やアドバイスを掲載し、各種認定取得を目指している多くの会員を支援したい。

〔施設紹介〕臨床検査技師の活躍の場としてあらゆる地域の施設を紹介していきたい。

〔学会参加報告〕学会で発表することの意義や思い、当日までのプロセスなどを掲載し、これから発表を考えている人たちの参考となるような頁にしたい。

2) 新臨技ニュース

佐藤 卓

理事会議事録、組織活動、求人情報など速報性・実用性のある内容を掲載していきたい。また、今後も広く会員に読まれるような読みやすいレイアウトを心がけたい。発行目安は月1回とし、理事会終了後、速やかに発行できるよう努めたい。

3) 新臨技ホームページ

近藤 善仁

ホームページは研修会案内・各支部活動・お知らせ・求人情報などをリアルタイムに掲載し、ネット環境があれば、いつでも閲覧可能となっている。昨今のスマートフォンの普及により、サイトへのアクセスも増加し、ページ内容への期待も増えている。今年度も新型コロナウイルス感染症に関する情報や会員に有益な情報をタイムリーに更新していきたい。また、メール文書配信システムの登録フォームも引き続き運用していきたい。

令和3年度収支予算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	8,760,000	8,705,000	55,000	
正会員受取会費	7,480,000	7,425,000	55,000	1360名×5,500
賛助会員受取会費	1,280,000	1,280,000	0	64社
事業収益	2,600,000	2,400,000	200,000	
参加費収益	600,000	1,800,000	△ 1,200,000	学会費300名×2000
会誌広告収益	1,000,000	600,000	400,000	会誌広告,名簿広告
受託事業収益	1,000,000	0	1,000,000	新潟県
受取補助金等	1,200,000	1,200,000	0	
受取民間助成金	1,200,000	1,200,000	0	日臨技、医師会
雑収益	205,000	205,000	0	
受取利息	5,000	5,000	0	
協賛金収益	100,000	100,000	0	学会展示
雑収益	100,000	100,000	0	祝儀等
経常収益計	12,765,000	12,510,000	255,000	
(2) 経常費用				
事業費	12,270,000	10,270,000	2,000,000	
学会費	1,000,000	1,000,000	0	第94回新潟県学会
運営費	1,500,000	1,000,000	500,000	臨床検査セミナー、技師長会議、新型コロナ研修
学術部活動費	2,500,000	2,500,000	0	研究部門活動費
学術雑費	120,000	120,000	0	源泉徴収税等
臨床検査精度保証費	450,000	450,000	0	新潟県精度管理事業
会誌発行費	4,100,000	2,600,000	1,500,000	会誌4号、名簿
広報編集費	700,000	700,000	0	広報委員会、HP維持管理費
組織広報費	900,000	900,000	0	各支部公益事業負担
災害対策費	200,000	200,000	0	
生涯教育表彰事業費	200,000	200,000	0	賞状作成費等
組織強化費	600,000	600,000	0	各支部助成金
管理費	5,180,000	6,530,000	△ 1,350,000	
備品費	200,000	200,000	0	
消耗品費	100,000	100,000	0	文房具、封筒
印刷費	300,000	600,000	△ 300,000	各種案内
通信費	500,000	800,000	△ 300,000	案内発送
交通費	100,000	350,000	△ 250,000	日臨技、北日本会議
渉外対策費	300,000	300,000	0	関連団体、支部対策
給料手当	650,000	650,000	0	事務職員
会議旅費	800,000	1,300,000	△ 500,000	理事会旅費

事務所維持管理費	1,750,000	1,750,000	0	賃貸料、電気代
電話費	120,000	120,000	0	
事務所雑費	30,000	30,000	0	
交際費	150,000	150,000	0	関連団体慶弔費
総会費	150,000	150,000	0	
雑費	30,000	30,000	0	
経常費用計	17,450,000	16,800,000	650,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,685,000	△ 4,290,000	△ 395,000	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計	0	0		
当期経常増減額	△ 4,685,000	△ 4,290,000	△ 395,000	
2. 経常外増減の部				
当期経常外増減額	0	0		
他会計振替額				
当期一般正味財産増減額	△ 4,685,000	△ 4,290,000	△ 395,000	
一般正味財産期首残高	23,551,282	24,874,041	△ 1,322,759	
一般正味財産期末残高	18,866,282	20,584,041	△ 1,717,759	
II 指定正味財産増減の部				
III 正味財産期末残高	18,866,282	20,584,041	△ 1,717,759	

注1：短期借入金限度額1,000,000円

注2：債務負担額はない